

第 91 回（2021 年春季）講演大会開催報告

2021 年 6 月 7 日（月）～8 日（火）の二日間、第 91 回講演大会（実行委員長：船川学術研究委員長）が無事終了いたしました。春の講演大会は東京工業大学大岡山キャンパスでの開催が恒例でしたが、今回はコロナ禍での開催のため、エッサム神田ホールを配信会場とした Zoom ウェビナーによる全オンライン形式としました。外部委託によらず自前開催で不安もありましたが、学術研究委員会メンバーと事務局の連携に加えて、事前に事務局とセッション担当座長間、およびセッション担当座長と講演者間での綿密なりハーサルを重ねたことで、講演会当日はトラブルもなくプログラム通りの開催が実現しました。オンライン開催にも拘わらず、初日に 108 名、二日目に 104 名の方が参加して盛会裏に終える事ができました。

今回の講演大会では、河上・赤見記念講演：1 件、Jセッション講演：12 件、一般講演：6 件、シンポジウムでの基調講演：1 件、依頼講演：5 件の発表がなされ、活発な質疑応答がありました。

河上・赤見記念講演では、日本製鉄(株)久保田 学氏より「高炭素低合金鋼における加工硬化オーステナイトの再結晶挙動」と題してお話頂きました。

Jセッション発表終了後は、木村勇次審査委員長他 6 名の審査委員による厳正なる審査を行い、研究発表奨励賞を以下の 3 件に決定しました。今回の 12 件はどれも内容が濃く、審査員泣かせの僅差の決定となりました事を付記します。

[最優秀賞] マルテンサイト鋼のへき開破壊に及ぼす変態内部応力の効果：川人悠生君（東工大院）

[優秀賞] 結晶粒微細化による油潤滑下摩擦係数の低減と転動疲労寿命向上：足立 望君（豊橋技科大）

[優秀賞] Fe-Ni-V 合金の低温窒化における拡張オーステナイト生成：謝 玉麟君（東北大院）

講演会初日の講演終了後には、Jセッションに対する研究発表奨励賞に続いて、2020 年度協会賞各賞、論文賞および口絵写真賞の表彰式が行われました。今回はオンライン開催のため、各賞受賞者のプロフィールと業績をスライドで紹介した上で、三島会長より WEB 画面上で賞状が授与されました。

恒例の懇親会は開催出来ませんでした。参加者全員が WEB 画面を共有する事で会員の思いが繋がりました。



各賞受賞者の賞状を読み上げる三島会長



研究発表奨励賞を発表する船川実行委員長



協会賞の受賞者を発表する渡邊副会長

二日目は、午前中の一般講演に引続いて「熱処理部品の疲労強度・耐摩耗性」に関するシンポジウムが開催されました。本テーマは第 87 回（2019 年春季）講演大会での参加者アンケート結果を基に設定されたものです。慶応大学 小茂鳥 潤教授による「熱処理と微粒子ピーニングによる構造用鋼表面の高機能化」と題する基調講演に続いて、素材提供、加工熱処理、評価の一連の流れで材料特性を見直すことによって日本のモノづくりの強靱化につながるとの観点から、微粒子ピーニングの作用効果、金属疲労と摩擦摩耗評価、窒化鋼のトライボロジー特性、駆動系部品の摩擦摩耗現象などについて講演がなされ、中身の濃いシンポジウムとなりました。

次回の第 92 回（2021 年秋季）講演大会は、西部支部主催で 11 月 25 日（木）と 26 日（金）の二日間「松江くびきメッセ」にて対面での開催を予定しております。

詳細は本号に掲載しておりますので、多くの方の参加と発表を期待しております。



Zoom ウェビナーの配信を行う協会スタッフ